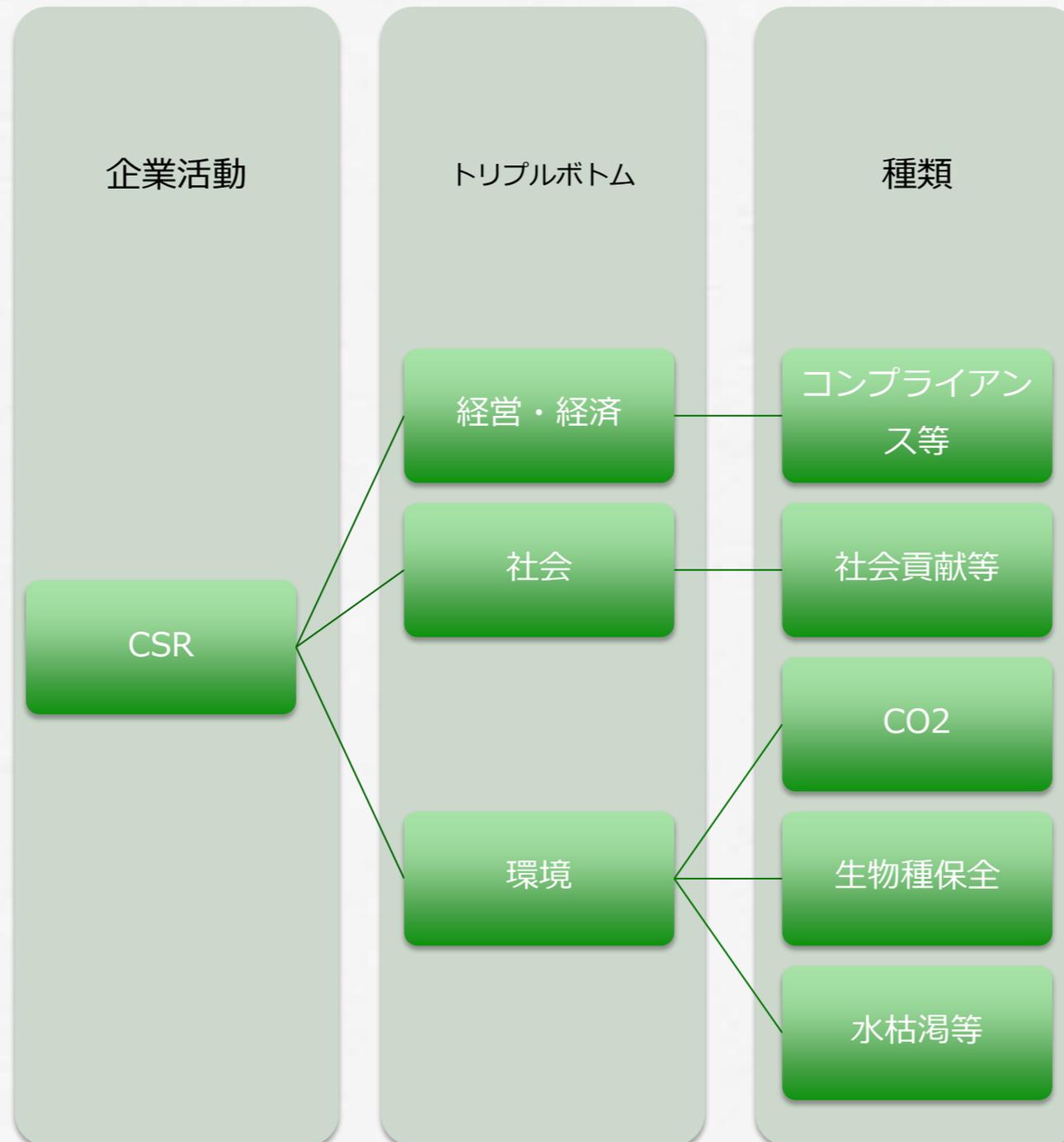


企業活動と熱帯林保全

1. 炭素クレジットを通じた森林保全・植林プロジェクトに企業が投資する意義
2. 森林炭素クレジット市場の将来展望
3. 今後の潮流

1. 炭素クレジットを通じた森林保全・植林プロジェクトに企業が投資する意義

トリプルボトムラインを理解しなければ
買い手はいない



環境への取組み

何を行なうのか？

- 公害
- 生物種の減少
- 放射能
- 温暖化
- 森林減少
- 砂漠化
- 水枯渇等々

企業の事業活動との関連性・ストーリー性が求められる

2. 森林炭素クレジット市場の将来展望

炭素クレジット 何を買うのか？

国内産

J-VER (吸収源有り)

国内クレジット

東京都環境確保条例等

VER

海外産

CER

VER

REDD+等 (今後)

3. 今後の潮流

- 環境貢献／貢献が見えやすいプロジェクト
- 人道支援に繋がるプロジェクト

日刊工業新聞2012/4/7

新聞掲載例

石垣市商工会

CO₂相殺で復興支援

東北地方から 廃棄物処理に充当 CFCが調達

石垣市商工会は昨年12月から今年1月に沖縄・石垣島の商店街で実施したクリスマスイベントで発生したCO₂の相殺に、「震災復興支援型カーボンオフセット」を活用する。これは信用クレジットの一部に被災地の東北地方から創出された国内クレジットを用い、購入金額の10%を震災復興支援プロジェクトに寄付する仕組みで、環境専門のコンサル会社であるカーボンフリーコンサルティング(CFC)がCO₂排出量の測定から国内クレジットの調達、代理償却、寄付金の受け渡しまでを担当。寄付金は被災地の廃棄物処理事業の資金に充てられ、地球温暖化対策と震災復興支援の両方に貢献することになる。

同商工会は石垣島美崎一の島商店街エコクリスマ、明使用等に伴って排出されたCO₂の相殺に、震災復興支援型カーボンオフセットを利用することにした。今回の取り組みでは、東日本大震災で大きな被害を受けた福島県南相馬市の入浴施設「ホテル森の湯」により創出された国内クレジットを用いてオフセットする。

同イベントに係る排出量は、1カ月のイルミネーションにおける電力使用量、クリスマス抽選会、エコクリスマスライブイベントから発生されるCO₂を対象とし、総量は72.3t(トン)と推定されている。実際の排出量を上回る1.1分の国内クレジットを購入することで、カーボンオフセットのみならず、カーボンマイナスを実現している。

CFCの中西武志代表取締役は、「地球温暖化対策と震災復興支援の両方に貢献できる有意義な取り組み。今後こうした案件は増えていくのではないかと話している。

【新聞掲載】石垣市商工会 震災復興型カーボンオフセット（環境新聞4月28日）
 この度、石垣市商工会の震災復興型カーボンオフセットの取り組みが、環境新聞に掲載されましたので、ご報告いたします。本取り組みでは、石垣島の商店街で行われたクリスマスイベントに係って排出されたCO₂を、福島県南相馬市の温泉施設より創出されたクレジットを用いてカーボンオフセットいたしました。資金の10%は震災復興支援プロジェクト「CHALLENGE TO CHANGE JAPAN」に充てられ、地球温暖化対策と震災復興支援の両方に貢献するイベントとなりました。

温暖化対策と復興支援

カーボンフリーコンサル

カーボンオフセット事業 売上高10%寄付

東日本大震災

国内クレジットは中小企業導入などで減らしたCO₂削減の工場や商業施設などが省エネルギー機器の導入が認められ、他社に売却できる。

カーボンフリーコンサルティング(横浜市中区、中西武志社長、045・222・3400)は、法人向けカーボンオフセット(炭素の相殺)サービスの売上高の10%を東日本大震災の災害廃棄物処理事業などに寄付する取り組みを始めた。経済産業省が認証した国内の二酸化炭素(CO₂)削減量(国内クレジット)をオフセットに使った場合が寄付の対象となる。オフセット実施企業は温暖化対策と震災復興支援の両方に貢献できる。

さるようにした制度。国内クレジットを購入した企業は、自らの事業活動に伴うCO₂排出量を打ち消すカーボンオフセットを履行できる。

カーボンフリーコンサルディングは全国から調達した国内クレジットを企業に転売する法人向けオフセットサービスを展開している。今回の寄付

の取り組みでは南相馬の温泉施設や盛岡の商業施設など、東北地方で生み出された国内クレジットを中心に活用する。

同社は全国産業廃棄物連合会や日本財団などと連携して復興支援プロジェクト「チャレンジ・トゥ・チェンジ・ジャパン」を立ち上げ、救済物資や支援金の寄付を受け付けている。カーボンオフセットサービスによる寄付金は同プロジェクトの下

で実施する災害廃棄物処理事業などに充てる。

3. 今後の潮流(例)

One Forest One Community For Food Security Pilot Project の実施場所
 モザンビーク共和国ガザ州マバラネ郡ンワマンジエレ村、シャヴェエ村
 ~木炭生産の最前線~

ONE FOREST ONE COMMUNITY FOR FOOD SECURITY PILOT PROJECTの構造



3. 今後の潮流(例)

One Forest One Community For Food Security Pilot Project の実施場所
モザンビーク共和国ガザ州マバラネ郡ンワマンジェレ村、シャヴェエ村
~木炭生産の最前線~

カーボン・オフセット証明書:本プロジェクトによる温室効果ガスのオフセット権
の購入者、企業に手交



カシュー木 カーボン・オフセット量概算:

- ・ 20年生のカシューの木一本当たりの炭素蓄積量(CO2換算):0.75ton/本
- ・ 地上・地下総量(リターは含まず):インドネシア・フローレス島でサンプリングを行い解析)
- ・ 一家庭プロット当たりの本数45本x70%=31本
- ・ 一家庭プロット当たりの炭素蓄積量:0.75ton/本 x 31本=23.21ton(乗用車9万キロ走行量に相当)
- ・ 全プロット(200家族)の炭素蓄積量:23.21ton x 200 = 4,642.69ton (乗用車18百万キロ走行量に相当)



インドネシアでの炭素量解析サンプリング風景



25年生のカシュー農園
(インドネシア、フローレス島)

3. 今後の潮流(例)

One Forest One Community For Food Security Pilot Project の実施場所
モザンビーク共和国ガザ州マバラネ郡ンワマンジエレ村、シャヴェエ村
~木炭生産の最前線~

植栽間隔・面積: FFAに参加する各家族1ヘクタールの既存の農地または元農地を
使用してカシューナッツを植林してアグロフォレストリーを実施

